

意見の内容と村の考え方及びその結果の一覧（実施要綱第8条、第9条関係）

【案件名 中札内村新庁舎建設基本設計】

NO	提出された意見	中札内村の考え方	結果
1	<p>役場庁舎東側（児童館側）にアートウォールを設置する計画ですが、道路を挟んで隣接する児童館の放課後児童クラブへの防犯対策としてウォールにスリットなどを入れて、人の目が届くようにしてほしいと思います。</p> <p>放課後児童クラブと役場庁舎の稼働時間帯はさほど重複しないと思われませんが、必然的に周辺の車の出入りは増えるので事故も心配です。</p>	<p>ご意見を参考に防犯対策を考慮したアートウォールの設置の可否も含めて検討して参ります。</p> <p>交通安全対策には十分意を配して参ります。</p>	<p>本実施設計段階で検討して参ります。</p>
2	<p>エントランス部（屋根付き歩廊・風除室等）の床材に、ゴムチップ弾性舗装を使用してはいかかでしょうか。ゴムチップはアスファルト・石・タイル等と違い、空隙層があるためゴムチップ全体に熱を吸収し、また、弾力性によりたわむので、氷が割れやすくなります。</p>	<p>エントランス部の床材について、施工コストやメンテナンスを考慮しながら検討して参ります。</p>	<p>本実施設計段階で検討して参ります。</p>
3	<p>①建物の部材を軽量にして加重を軽減しているのに、屋根に重いコンクリートを載せて負荷をかけることはラーメン構造の建物ではあり得ない。また、緑化屋根の効果は十分に検証されたものではなく、現状ではマイナス面が多い。</p>	<p>①基本設計において屋根面の緑化も検討すると記載していましたが、ご意見をいただいたとおり実施設計では検討しない方向で考えています。</p> <p>屋根にコンクリートを打設する理由としては、倉庫などと違い庁舎は長期的に使用するため耐久性が必要です。防水施工を定期的に行うことを想定すると、維持管理のしやすさからもコンクリートであることが望ましいと判断しています。</p>	<p>本実施設計段階及び発注までに、いただいたご意見を参考に熟考して参ります。</p>

	<p>②トップライトは冬期間結露の防止対策が必要となり、空調を自然対流方式とすることに問題がある。</p> <p>③村がどのような理念を持ってこの建物を建てようとしているのかわらかにするべきである。 プロポーザル業者に全て丸投げすることなく、職員の経験と知見を十分に生かすべきである。</p> <p>④中札内村は豪雪地帯である。排雪スペースが足りていないのでは。</p> <p>⑤駐車場をイベントに使用することについて検討の必要はない。</p>	<p>②冬期間における室内と外気温の差が大きいは避けられないと考えますので、結露による劣化防止策を施します。空調は地中熱を利用した空気循環システムを構築する予定ですので、トップライトの役割は自然対流としてではなく、採光がメインとなります。</p> <p>③新庁舎は子どもからお年寄、障害を持った方など誰もが利用しやすく、職員にとっては働きやすい施設であり、更にはまちづくりの拠点として災害時には災害対策本部としての機能を備えた施設とします。 設計業者とは綿密に打ち合わせを重ね、村民、議員等からいただいた意見を内部でも十分に検討し、反映しながら設計を進めてきています。</p> <p>④排雪のための堆雪スペースについてはご意見のとおりです。冬場は草木が隠れるため、花と緑とアートの広場に堆雪スペースを確保することも検討しています。</p> <p>⑤現時点での駐車場の利活用については、雪を堆積するスペースはもちろんですが、災害時の防災拠点となった際、緊急車両や支援物資輸送車などの出入りが想定されます。大型車両が出</p>	
--	--	---	--

	<p>⑥「花と緑とアートの村」というスローガンは現在の村政と整合性はあるのか。この場所でのアート空間は町並みや周辺施設との機能的連携がない。植栽については工事コスト、管理コストをふまえ見直すべきである。</p> <p>⑦平面計画について</p> <p>⑧建物の耐用年数は。また、平屋ではなく鉄筋コンクリート一部2階建てとすべきでは。</p>	<p>入りできる十分なスペースを設けるべきと考えています。</p> <p>⑥当村は「花と緑とアートの村」というイメージが定着し、「日本で最も美しい村」連合への加盟を契機として、更なる環境整備保全や文化活動等に取り組んでいます。今後もその方向性はあらゆる場面で活かしていく考えです。</p> <p>除雪や植栽に関することは、いただいたご意見を参考に必要と判断する部分についての見直しは図って参ります。</p> <p>⑦さまざまなご意見をいただいておりますが、今後の実施設計及び発注までに見直しが必要と判断する部分については十分に検討して参ります。大きな施工コストの増加、ランニングコストの増加につながることはないよう留意しながら、機能的な庁舎の在り方を追求して参ります。</p> <p>⑧耐用年数については、税制上の減価償却の考え方はありますが、建物寿命として鉄骨造と鉄筋コンクリート造を比較したときに、将来的に鉄骨造の利点が生きると考えて採用しています。例えば鉄骨造の構造自体は劣化することがなく、壁や屋根の改修を定期的に行うことで建</p>	
--	--	---	--



	<p>⑪旧庁舎跡地の利用策検討と改善センターの利用方策について</p>	<p>その他基金を取り崩すのではなく、設計内容の見直しを基本とします。</p> <p>そのような見直しを行っても財源の確保が困難な場合は、将来の財政への影響を予測しながら、地方債充当率の引き上げや庁舎整備基金の積み増し、備荒資金の取り崩しなどさまざまな対応を検討する必要があると考えています。</p> <p>なお、大幅な事業費の増高により大きく設計内容を変更するような場合は、議会はもちろんのこと、村民の皆さんにも説明し意見をいただく機会を設ける必要があると考えています。</p> <p>備品についても安易に入れ替えることはせず、コストと機能面を十分に勘案しながら導入の検討を進めて参ります。</p> <p>⑪利用策については関係部署間での検討を始めており、中心市街地の施設としてあるべき姿や具体的な利用策まで様々な意見を出している段階です。</p> <p>今後内部検討を加速化するとともに、各種団体、村民のみなさんの意見を取り入れる機会を設けながらスケジュール化して方向性をまとめる考えです。</p>	
--	-------------------------------------	---	--